

令和5年度 学校図書館活用推進校実践報告

新潟市立沼垂小学校

1. 今年度の図書館活用の基本方針

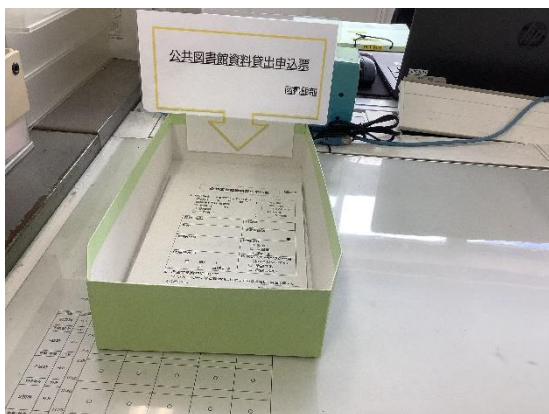
- 「学習センター」「情報センター」としての機能を高めるために、学習に活かせる資料リスト作成と情報の活用の仕方（著作権に関わる指導）を行う。
- 中学校区で連携した著作権に関わる指導を行う。（統一した啓発ポスターと出典カードを使用。）

2. 「学習センター」としての取り組み

これまで、さまざまな学習で図書資料の活用を行ってきたが、より活用しやすいように新たに2点の取り組みを追加した。

(1) 公共図書館資料貸出申込票

職員室の司書の机上に用紙を準備し、常に活用できるようにした。



公共図書館資料貸出申込票		教員利用																																	
1 申込内容 ※必ず記入してください		<table border="1"> <thead> <tr> <th>タイトル/シリーズ名など</th> <th>*著者名/出版社</th> <th>*貸出日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>*記入についての注意事項 ・著者名/出版社は、わかる範囲でかまいません。 ・必要冊数は、同じ本(種本)が必要な場合は冊数を必ず記入してください。 3 その他 ・希望する資料が貸出中、または予約が入っている場合は申し込みをしますか？ □ 申し込み □ 申し込みない ・延長の申し込みは、司書に直接申し出てください。(延長できない場合があります) ・質問などがありましたらいつでも司書に相談してください。</p> <p>記入後、こちらの用紙は司書の連絡棚(ケース)に入れてください。 お急ぎの場合は図書館までお願いします。</p>	タイトル/シリーズ名など	*著者名/出版社	*貸出日	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10		
タイトル/シリーズ名など	*著者名/出版社		*貸出日																																
1																																			
2																																			
3																																			
4																																			
5																																			
6																																			
7																																			
8																																			
9																																			
10																																			
申込日 年 月 日 ()	【貸出冊数】 図書・雑誌 150冊まで 【貸出期間】 31日間																																		
資料を利用する対象 <input type="checkbox"/> 児童() <input type="checkbox"/> 教職員 <input type="checkbox"/> その他()																																			
教科・活動	担当者																																		
単元	必要な冊数																																		
活動内容	活動場所 <input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> その他																																		
使用予定日 月 日()~ 月 日頃まで	自校ブックトラックの使用 (自校に4台あります) <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない																																		
2 希望する資料について タイトル、シリーズなど具体的に決まっている場合は、裏面に記入してください。		裏面もご覧ください																																	

(2) 学習で使った図書資料リストの作成

資料の題名や出版社等の一覧表では、実際の資料がどのようなものか確かめるのに時間がかかった。そのため、一目で資料がイメージできるように、ICT 端末のロイロノートスクール内の資料箱に、学年・教科・単元別に画像入りのリストを作成した。

2年生 生活科

単元名：「ぐんぐんそだて わたしのやさい」

準備した資料：16冊（自校図書館）

資料利用期間：6月から7月

タブレットの活用：あり



6年生 国語

単元名：「やまなし」

準備した資料：49冊（自校図書館）
21冊（公共図書館）

資料利用期間：9月から10月中旬

タブレットの活用：なし



3. 「情報センター」としての取り組み

(1) 新潟市版「情報活用能力」育成の方針より

「情報活用能力を発揮しながら学ぶ 自立した学習者のイメージ ICT 端末を活用した学びにおいて目指す姿」(新潟市情報活用能力育成資料)には、「情報には著作権があることを理解し、正しく引用・利用している。」と示されている。

(2) 児童の実態

- ・国語や社会，総合的な学習の時間等で，さまざまな調べ活動に意欲的に取り組んでいる。
- ・本やタブレットで調べたことを書き写したり，コピーアンドペーストしたりするが，出典を明らかにせずまともに使っている児童が多い。

(3) 今年度の取り組み

- 著作権についてのオリエンテーション
- 3年生以上の全学級で啓発ポスターの掲示
- 出典カードの指導と活用

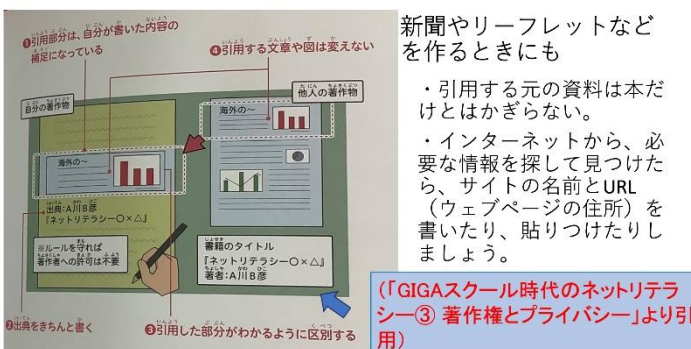
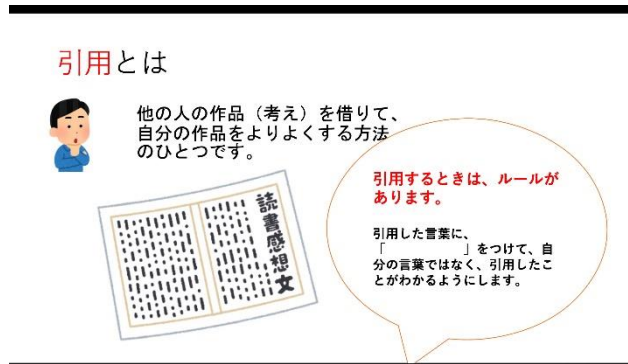
4. 指導の実際

(1) 著作権についてのオリエンテーション

3年生以上の全学級で10～15分程度のオリエンテーションを実施した。

指導内容


3年生	4年生	5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書「引用」をもとに説明 ・参考にしたい図書館資料の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・「引用」と「出典」 ・他の人の作品を利用するとき，その考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた引用の使い方 ・出典カードの記入について（ウェブサイトを含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用，出典の関連性 ・著作権について



(2) 出典カードの指導と活用

出典カードは、紙のものは図書館に、データ用のものはロイロノートスクール内の資料箱（学内共有）に準備した。また、「インターネット資料の使い方」も作成し、同様に資料箱に入れ、子どもたちが活用できるようにした。

1 参考になりたいサイトのページをスクリーンショットする。
(必要な部分をトリミングしても良い。)



2 画面の上のURL部分を長押しする。



コピーする。


3 出典カードのURLの場所にペーストする。

ウェブサイトの出典
サイト名 『ハナマルキ 情報みそ蔵』
作った人：ハナマルキ株式会社
URL： <https://www.hanamaruki.co.jp/misogura/about/production-flow-of-miso/>
サイトを見た日：2023年11月24日

サイト名，作った人（会社），見た日も記入する。

出典カードは，まとめの最後につける。

4 スクリーンショットをカードに貼り付ける。
(カードとサイトの色は変える。)
貼り付けたところの右下に （インターネットより） と記入。



<注意>
貼り付けたものだけにならないように，必ず自分の言葉を入れる。

(3) 授業実践（出典カードを活用した授業） 別紙参照

5. 結果と考察

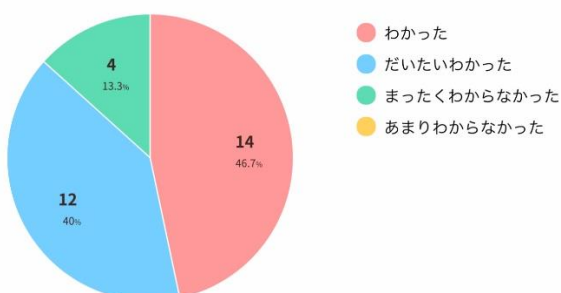
(1) アンケートの実施

① 児童

3年生

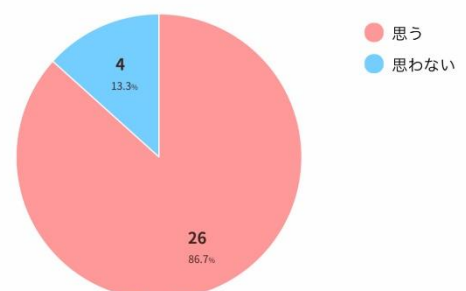
【1】オリエンテーションの内容はわかりやすかったですか？

棒グラフ 円グラフ



【2】オリエンテーションの内容は、これからの学習に役立つと思いますか？

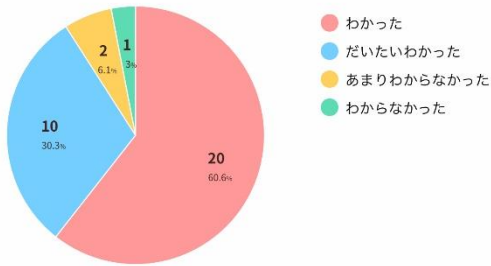
棒グラフ 円グラフ



4年生

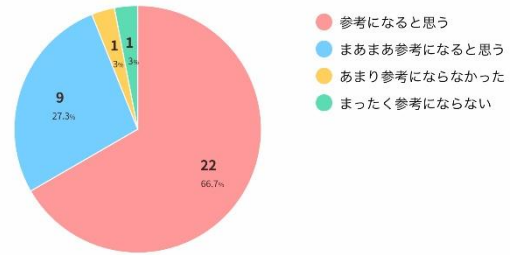
【1】オリエンテーションの内容はわかりやすかったですか？

棒グラフ 円グラフ



【3】オリエンテーションの内容は、これからの学習の参考になりそうですか？

棒グラフ 円グラフ

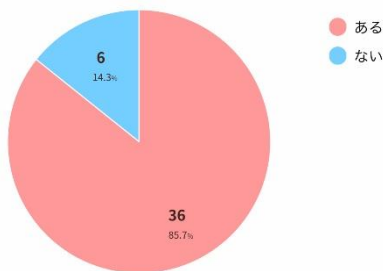


3年生、4年生とも、オリエンテーションの内容がだいたい分かった児童は、これから生かそうという意識をもつことができた。(分からなかった児童は、「思わない」と回答していた。) 1回の指導ではなく、調べ学習のときなどで繰り返し行い、意識付けを図っていく必要がある。

5年生

【1】これまでの調べ学習で、「著作権」を意識したことがありますか？

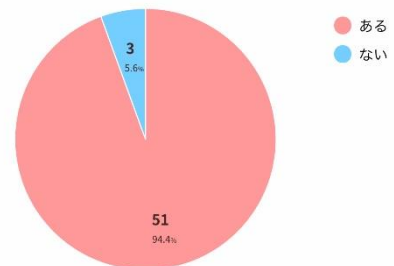
棒グラフ 円グラフ



6年生

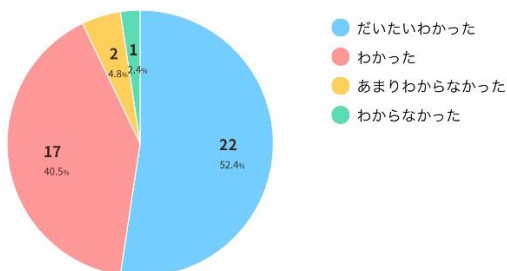
【1】これまで、調べ学習で「著作権」を意識したことがありますか？

棒グラフ 円グラフ



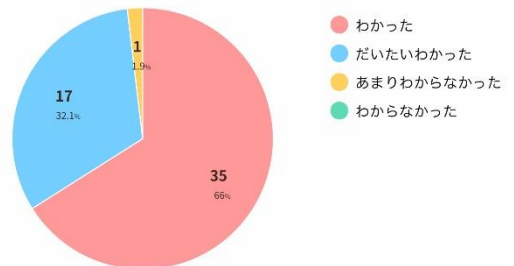
【2】オリエンテーションの内容は、わかりやすかったですか？

棒グラフ 円グラフ



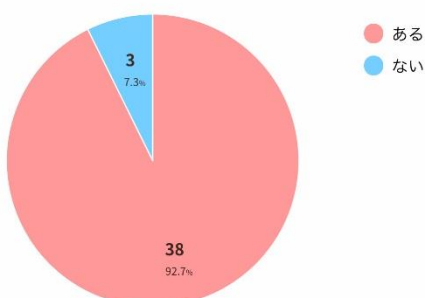
【2】オリエンテーションの内容はわかりやすかったですか？

棒グラフ 円グラフ



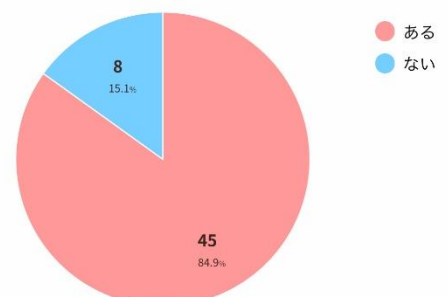
【3】これまでの学習で、「引用」を使ったことはありますか？

棒グラフ 円グラフ



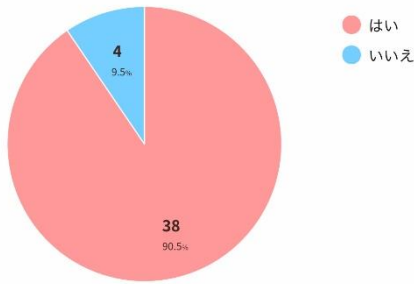
【3】学習のまとめの時に「引用」（「出典」）を使ったことはありますか？

棒グラフ 円グラフ



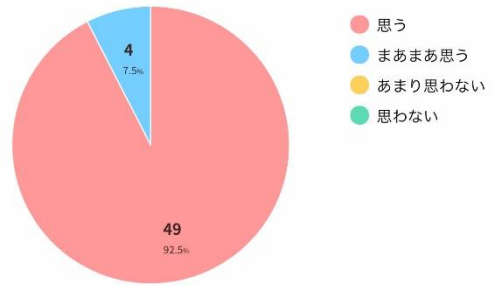
【4】「引用」や「出典」について、理解できましたか？

棒グラフ 円グラフ



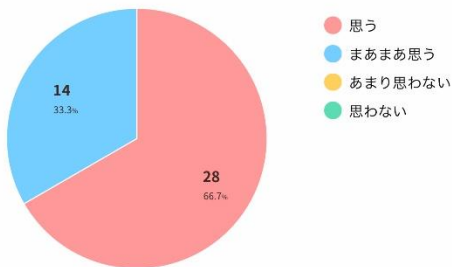
【4】「著作権」について知ることは大切だと思いますか？

棒グラフ 円グラフ



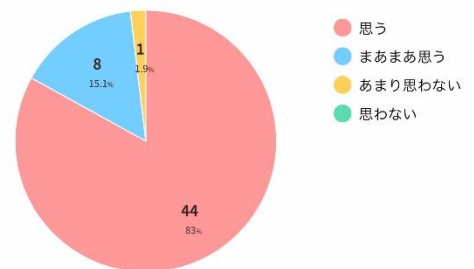
【5】オリエンテーションを聞いて、これからの学習に役立てようと思いますか？

棒グラフ 円グラフ



【5】オリエンテーションを聞いて、これからの学習に役立てようと思いますか？

棒グラフ 円グラフ

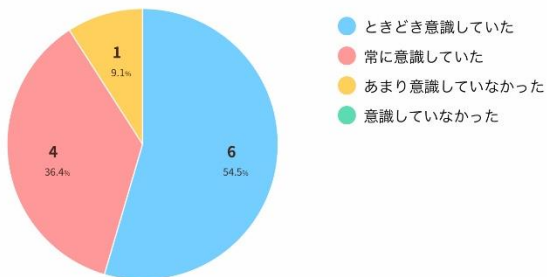


- ・高学年は、著作権や引用について意識はしている。
- ・5年生よりも6年生が、著作権についての意識が高い。

教員

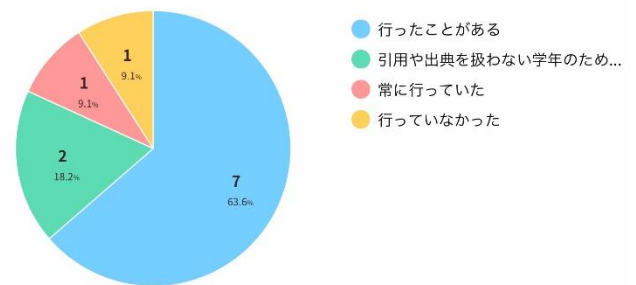
【1】昨年度まで、学習指導において著作権を意識していましたか。

棒グラフ 円グラフ



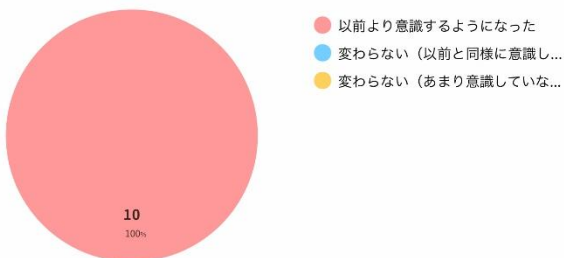
【2】昨年度まで、調べ学習のまとめ等で引用や出典の指導を行っていましたか。

棒グラフ 円グラフ



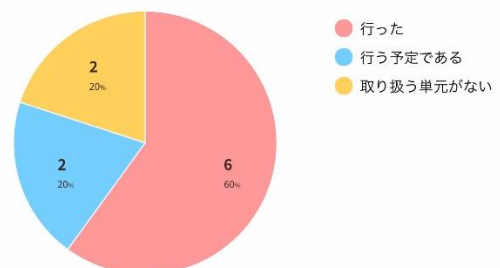
【3】著作権に関わるオリエンテーションを聞いた後、著作権に関する意識は変わりましたか。

棒グラフ 円グラフ



【4】オリエンテーションの後、子どもたちの調べ学習のまとめ等の際に、引用・出典の指導を行いましたか。

棒グラフ 円グラフ









- ・著作権の学習後、児童から「先生、出典を書いた方がいいですね。」という発言が聞こえてきた。学習の成果が出ている。
- ・今後、高校や大学などでレポートを作成する際に、引用を明記しないことで単位を取ることができないで留年という事態に陥ることがある。今の時期からしっかりと著作権について意識付けておくことが大切だと思う。
- ・様々な場面でいつも意識していけるようにしたい。子どもたちはコピーを日常的にしているので、意識を高めていかなければならない。
- ・小学生の段階から「著作権に関わる指導」を行うことの大切さを感じた。特に、これからの情報社会で生きていく児童のみならず、われわれも学ぶ意義があると考えた。


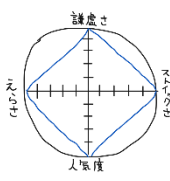
6. 今年度の実践を振り返って

- 学習で活用した図書資料をロイロノート（資料箱）にまとめた。学年毎に教科単元別に写真で示すことで、どんな資料かイメージしやすいものになった。また、各学年の資料も共有できるようになった。
- 図書館を計画的に活用できるように、国語の教科書の変更に合わせて新たに図書館年間活用計画を作成し直す必要がある。その際、「読書センター」「学習センター」「情報センター」で分類する。
- 中学校区で統一して著作権に関わる指導を行ったことで、中学校へ進学しても活用できる良さがある。
- 今年度著作権の指導を改めて行ったことで、子どもたちが調べ学習で「引用」について意識する姿が増えた。しかし、児童にとって引用の仕方や出典の表し方は難しいので、これからも継続して指導していく必要がある。

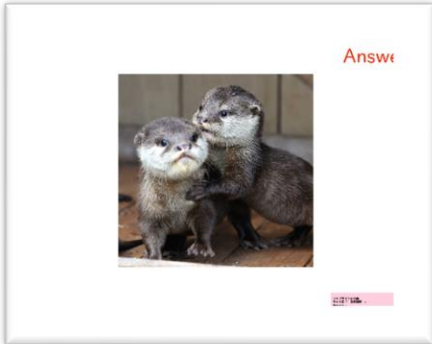
沼垂小学校 出典カードを活用した授業 例Ⅰ

<p>学年・教科・単元</p>	<p>5年生 総合的な学習 「発酵のまち 沼垂」</p>
<p>ねらい</p>	<p>沼垂地域で盛んな発酵食品について、地域の関連する施設を訪ねたり、味噌作りの体験をしたり、本やインターネットを活用したりして調べを通して、地域の良さを実感する。</p>
<p>指導計画</p>	<p>全50時間 第1次 発酵食品とは何だろう 第2次 発酵食品のまち・沼垂を探検しよう 第3次 調べたことをまとめ発表しよう</p>
<p>授業の実際</p>	<p>沼垂地域で盛んな発酵食品について調べ、まとめる学習を行った。</p> <p>第1次 発酵食品について本やインターネットを用いた調べ学習 発酵食品とは何か。どんな食品が発酵食品なのか。どのように作られるのかについて、インターネットや本で調べまとめた。しかし、著作権についての指導をしっかりとしていなかったため、児童は、インターネットのものをコピーして貼り付けていたが、出典についての記述はなかった。</p> <p>第2次 沼垂地域における発酵食品 地域の発酵食品を扱うところを見学したり、本やインターネットによる調べ学習をしたりした。</p> <p>第3次 調べたことをまとめ発表 これまで学習したことをロイロノートにまとめ、4年生に向けて発表する資料を作成した。著作権についてのオリエンテーションを行った後、さらにインターネットの引用の仕方を知らせた。児童は資料作成時に、インターネットを引用するときに気をつけ、友達同士で確認し合っていた。</p> <div data-bbox="427 1263 884 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>沼垂の発酵食品を作っている場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋商店 納豆  ・今代司酒造 日本酒  ・沼垂ビール クラフトビール  ・峰村醸造 味噌  ・坂豊商店 味噌  <p style="text-align: right; font-size: small;">Google 各店ホームページ</p> </div> <div data-bbox="900 1234 1378 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・味噌</p>  <p style="text-align: right; font-size: small;">インターネットより</p> <p style="font-size: x-small;">百川味噌の専売です。このような味噌があります。味噌を発酵するには30〜32℃ということがわかりました。</p> <div style="background-color: #ffe6e6; padding: 5px; font-size: x-small;"> <p>ウェブサイトの出典 サイト名「発酵食品の街・沼垂から発信の味噌を」 作った人：新潟県味噌醤油工業協同組合 URL：https://niigato-echigomiso.ameblo.wd.com/posts/8524653/#gid=1&pid=2 サイトを見た日： 2023年 11月 24日</p> </div> </div> <p>(子どもたちのまとめの一部)</p>
<p>成果や課題</p>	<p>「情報を活用する力における成果」</p> <p>総合のまとめだけでなく、ほかの教科でもインターネットからの情報を使用するときに、「出典をはっきりさせなくては」と児童から気を付けようとするようになった。また、コピーして貼り付けするだけでなく、自分の考えをしっかりと入れようとする児童が増えてきた。</p> <p>「課題」</p> <p>タブレットをつかったまとめでは、出典カードはほぼコピー貼り付けができるので、活用しやすかった。しかし、本を使った場合文字入力が必要となるため、児童から敬遠されがちになってしまった。活用する資料の選択の幅が狭まってしまったように見えた。</p>

沼垂小学校 出典カードを活用した授業 例2

<p>学年・教科・単元</p>	<p>6年生 社会科 「推しの歴史人物調べ、新聞づくり」</p>
<p>ねらい</p>	<p>これまで学習してきた内容をいかして、児童ひとりひとりが興味のある歴史的事業や人物(=推しの歴史人物)について調べ、新聞にまとめることができる。</p>
<p>指導計画</p>	<p>全 時間 第1次 学習内容を知り、推しの歴史人物を決める。 第2次 推しの歴史人物について必要な情報を調べる。 第3次 調べた情報を基に、推しの歴史人物について新聞にまとめる。</p>
<p>授業の実際</p>	<p>(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)</p> <p>自分の興味のある歴史人物を選択することで、児童は学習の意欲を高めていた。そして、インターネットや書籍を参考にして、必要な情報を調べていた。</p> <p>インターネットに関する出典カードに記載する際は、作成者やサイト名などを探すことにはじめは時間がかかっていたが、グループの友達に聞きながら、徐々にスムーズに活動に取り組むことができていた。</p> <div data-bbox="414 963 829 1523"> <p>スティックで謙虚な軍人</p> <p>東郷 平八郎</p>   <p>都市伝説かも？ 肉じゃがを生んだ！？平八郎</p> <p>「ビーフシチューを作れ」 平八郎が料理長にこう命じたのは、初代司令長官についた頃。イギリスへ留学していた平八郎は、その時口にしたビーフシチューの味が忘れられなかったとか。 ところが料理長はビーフシチューを知らなかった。しかしそれでも、なんとか「とても美味しい和風の何か」を作り上げてしまったのだ！これは「甘煮」と名付けられ、肉じゃがの原型と言われている。</p> <p>スティック&謙虚すぎ！ 平八郎の名言集</p> <p>「古人曰く勝つて兜の緒を締めよ」</p> <p>「人間いちばん大切なことは、まじめということである。」</p> <p>「自分のことは自分でする」</p> </div> <div data-bbox="861 963 1436 1276"> <p>ウェブサイトの出典 サイト名『NPO法人 NEWSつくば』 作った人： URL：https://newstsukuba.jp/27454/01/11/ サイトを見た日：2024年1月12日</p> <p>ウェブサイトの出典 サイト名『歴史上の人物.com』 作った人： URL：https://colorfl.net/togoheihachiro-matome/ サイトを見た日：2024年1月12日</p> </div>
<p>成果や課題</p>	<p>「情報を活用する力における成果」</p> <p>インターネットの情報を鵜呑みにしている子が多く、「情報元は信用できるサイトか考えること」「公開されている情報がすべて正しいわけではないこと」など、メディアリテラシーについて児童が学習する機会となった。</p> <p>また、出典カードを活用することで、情報の作成者やサイト名など、サイト内のどこを見ればよいかについて、児童が考え、学習する機会となった。</p> <p>「課題」</p> <p>外国語での実践同様、サイト名や作成者については見付けにくいことが多い。出典カード内にどこまで記載の必要があるか検討の必要があるように感じた。</p>

沼垂小学校 出典カードを活用した授業 例3

学年・教科・単元	6年生 外国語 Unit5 We all live on the Earth.
ねらい	地球に暮らす生き物について考えるために、それら生き物どうしのつながりなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。
指導計画	全8時間 第1次 学習内容を知る。 第2次 生き物の暮らしの言い方に慣れ、クイズを作る。 第3次 生き物クイズを出し合う。
授業の実際	<p>単元のゴールをオリジナルの生き物クイズを出し合うことにした。</p> <p>クイズに必要な言い方を練習後、自分のクイズにしたい生き物を決め、ロイロノートを使ってクイズ出題のプレゼンテーションを作成した。そのプレゼンテーションに使用する写真やイラストをインターネットから引用する場合は、出典カードを活用するように促した。URLのコピーの仕方を説明し、サイト名や作った人について分からない場合は、空欄でよいことにした。</p> <div data-bbox="692 840 1126 1182" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="424 1205 1410 1361" style="background-color: #f8d7da; padding: 5px;"> <p>ウェブサイトの出典 サイト名『毎日新聞』 作った人： URL：https://mainichi.jp/graphs/20230531/mpj/00m/040/028000f/20230531mpj00m04002000p サイトを見た日： 2023年 10月 19日</p> </div> <p>(子どもたちの生き物クイズプレゼンテーションの一部)</p>
成果や課題	<p>「情報を活用する力における成果」</p> <p>昨年と同じ活動を行ったときは、出典について記すように呼び掛けなかった。その時と比較すると、動物の絵を自分で描いたり、フリーの素材を活用したりする児童が増えた。他の人の写真やイラストを好き勝手に扱わないという意識を持たせることができた。</p> <p>「課題」</p> <p>コピー貼り付けなどの作業に慣れている児童はよいが、教科の学習を優先させながら、出典カードの記入を指導するには時間の余裕が必要であった。今後、このような作業に全員が慣れていくとよいと考える。</p> <p>サイト名や作った人については、見つけにくいことが多い。出典カードは、空欄でよいと伝えても児童は、項目があると書きたくなるようであった。その結果、作った人を間違えて記入することがあった。出典カードは、児童が作成したのち、本当に正しい情報なのかを指導者が確認するのは、大変はんさなことである。出典カードの誤記入についてどう対処するのか、検討していく必要を感じた。</p>